

日本の和装文化の原点、平安朝の装束文化の基礎知識を学ぶ
最新刊『イラストでみる 平安ファッションの世界』3月19日発売
ファッションデザイナー・高島克子がカラーイラストとともに解説

株式会社有隣堂（本社：神奈川県横浜市 代表取締役社長：松信 健太郎）は、3月19日、当社出版物の最新刊として、『イラストでみる 平安ファッションの世界』を発売します。著者は、服飾デザイナーの高島克子（たかしま かつこ）氏。本書では、日本史上の服飾文化の変遷を調べてきた著者が、貴族はもとより、皇族から庶民までの代表的な装束を、カラーイラストとともに紹介します。また、平安期の権力闘争とファッションの関係、美的センスの特徴などを多角的に解説することで、当時の装束文化の基礎知識が学べ、大河ドラマをより楽しめる一冊となっています。

- 書名：『イラストでみる 平安ファッションの世界』
- 著者：高島克子
- 出版社：有隣堂
- 予価：税込2,200円（本体2,000円+税）
- 体裁：A5判・本文256頁
- ISBN：ISBN978-4-89660-246-3
- 発売日：2024年3月19日（火）
- 取り扱い：有隣堂各店（一部店舗除く）、全国の書店
- 内容：

日本史上もっとも華やかなファッション文化が花開いた平安時代は、後世の和装文化の原点といえます。ファッションデザイナーであり日本史上の服飾文化の変遷を調べてきた著者が、カラーイラストとともに平安ファッションの世界を多角的に解説します。また、「女性貴族の十二単（じゅうにひとえ）」が、重ね着になった理由や、「なぜ床に引きずるほど長い袴を履くのか」など素朴な疑問も解消され、平安朝の装束文化の基礎知識が学べます。



著者：高島 克子（たかしま かつこ）

エイフレッシュ代表・服飾デザイナー。京都女子大学短期大学部・City College of San Francisco・産能大学（現・産業能率大学）卒業。産業能率大学、自由が丘産能短期大学、創造社デザイン専門学校で非常勤講師を務める。

「おしゃれで機能的」をコンセプトに、リサイクル着物地のエシカルなベレー帽や着物・帯・半衿デザインを手掛ける。2022年、着物アップサイクル「一条想伝®」プロジェクトを始動。

2021年、『着物は時代を物語る』AmazonよりPOD出版し、被服文化史の講演会やイラスト展@平岡珈琲店を開催。2022年久留米緋デザインコンテストで最優秀賞受賞。



■ 担当編集者が語る本書の読みどころ

1. 日本史上でもっとも華麗なファッション文化の変遷を辿る

日本史上でもっとも華麗なファッション文化が花開き、約 400 年続いた平安時代は、後世の日本の和装文化の原点といえます。その変遷は、唐の影響を受けて 100 年続いた「唐風文化」、遣唐使廃止後に装束の日本化が進み、200 年にわたる「国風文化」、武士の台頭で衣服が簡素で実用的になる「武家風文化」の 3 期に大別されます。大陸文化の模倣の段階から、「十二単」などの「和」の装束文化を開花させ、やがて機能的で簡素な衣裳に移ろっていくなかで、日本人の着物文化の基礎は練り上げられていきました。

本書では、その変遷を、著者の解説とともに辿ることができます。

2. 大河ドラマの世界がわかる

現在放送中の大河ドラマは、『源氏物語』を書いた紫式部が主人公です。藤原道長との関係を軸に、華やかな平安装束をまとった俳優たちが活躍しています。しかし、着ている物や身に付けている小物など、ふだん馴染みがないだけに名前すらわからない人も多いのではないのでしょうか？

本書では、様々な装束の名称・形状の紹介と解説をはじめ、「女性貴族の十二単（じゅうにひとえ）が、そんなに重ね着になった理由」や、「男性貴族の烏帽子（えぼし）に、様々な形があるのはなぜ？」、「どうして屋内で、床に引きずるほど長い袴を履くのか」などの素朴な疑問の答えがよくわかります。大河ドラマを楽しむ上での、平安朝の装束文化の基礎知識が学べます。

■ 有隣堂の出版物：<https://www.yurindo.co.jp/yurin/tanko>
